

寶金総長がウポポイを訪問

サステナビリティ推進機構設置に伴う記者会見を開催

鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問



## 全学ニュース

- 1 寶金総長がウポボイを訪問
- 2 第4回 定例記者会見を開催
- 3 サステナビリティ推進機構設置に伴う記者会見を開催
- 4 北大フロンティア基金
- 6 令和3年度北海道大学公開講座（全学企画）「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」を開催
- 7 令和3年度出入国管理制度説明会をWebexオンライン会議システムで実施
- 8 令和3年度北海道大学新渡戸賞受賞者を決定
- 8 DEMOLA HOKKAIDO「北大チーム」がテレビで紹介
- 9 「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」設立総会に参加
- 9 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるオンライン日本留学フェアを開催
- 10 The Japan-UK higher education dialogue 2021に横田理事・副学長が出席
- 11 令和3年度第1回サステナブルキャンパス推進員会議を開催

## 部局ニュース

- 12 2021年度夏期国際シンポジウム「不確実性の時代のスラブ・ユーラシア研究：対話と再検討」を開催
- 13 北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム3期生修了式（6月期）を開催
- 14 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
- 14 UR都市機構と連携協定を締結
- 15 鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問



寶金総長がウポボイを訪問



サステナビリティ推進機構設置に伴う記者会見を開催

- 16 工学研究院産学連携強化説明会を開催
- 16 株式会社クレスコ 代表取締役社長執行役員 根元浩幸氏に感謝状を贈呈
- 17 「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」開設記念式典及びセミナーを開催
- 18 メディア・コミュニケーション研究院で公開講座「関西弁の音声学」を開催
- 19 子育て世代支援スペース「北水キッズクラブ」を設置
- 20 賞味期限が近づいた「災害備蓄用保存パン」を配付
- 21 低温科学研究所が中谷宇吉郎 雪の科学館と連携協定を締結
- 22 附属図書館でMendeleyオンライン講習会を開催
- 22 「ようこそ北大へ！新生活を彩る、役に立つ、やる気がある！おすすめ本」図書展示を開催

## 諸会議の開催状況 23

## 学内規定 24

## 表敬訪問 25

## 人事 25

- 26 新任教授紹介

## 訃報

- 28 名誉教授 渡辺 昇 氏
- 28 名誉教授 長嶋 和郎 氏



株式会社クレスコ 代表取締役社長執行役員 根元浩幸氏に感謝状を贈呈



「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」開設記念式典及びセミナーを開催



子育て世代支援スペース「北水キッズクラブ」を設置



低温科学研究所が中谷宇吉郎 雪の科学館と連携協定を締結

表紙：鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問（関連記事15頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑩ 総合博物館（北10条西8丁目付近）

## ■全学ニュース

### 寶金総長がウポポイを訪問

7月20日（火）、寶金清博総長が白老町の民族共生象徴空間「ウポポイ」を訪問しました。

ウポポイは、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとして、アイヌの歴史・文化の理解促進や、将来へ向けてアイヌ文化を継承し、新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点として、令和2年に整備されました。

当日は、本学を含む全国の大学等で保管されていたアイヌの方々の御遺骨を集約した「慰霊施設」を訪れました。その後、ウポポイの中核区域に移

動し、伝統的コタンにおける口承文芸実演や、体験交流ホールにおける、伝統的な歌と踊り、楽器演奏等を幅広く紹介する「シノッ〜アイヌの歌・踊り・語り〜」を鑑賞しました。

続いて、北日本では初の国立博物館である「国立アイヌ民族博物館」を訪れ、常本照樹アイヌ民族文化財団理事長（前北海道大学アイヌ・先住民研究センター長）や佐々木史郎アイヌ民族博物館長から展示内容について説明を受けました。

本学は、ウポポイへの誘客促進に取り組むとともに、ウポポイと道内各地

のアイヌ文化振興の取組や食・観光等の地域の多様な魅力とをつなぎ、国内外への総合的な情報発信を強化するなど、オール北海道で、アイヌ文化の創造発展と道内経済の活性化・地域創生の好循環を図ることを目的に、行政、経済界などで構成される「ウポポイ官民応援ネットワーク」の構成員となっています。

皆様も是非一度足を運んでみてください。

（総務企画部総務課）



常本アイヌ民族文化財団理事長から説明を受ける寶金総長



佐々木アイヌ民族博物館長から説明を受ける寶金総長

## 第4回 定例記者会見を開催

7月15日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。吉見 宏理事・副学長（広報室

長）の進行のもと、理学研究院の冨本尚義教授と川崎教行助教、ハワイ大学ケック宇宙化学研究所の永島一秀マネージャーが発表し、その後、研究現場の見学会を行いました。当日は北海道

教育庁記者クラブ加盟社から11名の参加がありました。発表・報告内容は以下の通りです。

（総務企画部広報課）

16：00～17：00 会場：北海道大学創成研究機構

### 発表事項（発表者）

- ・「はやぶさ2」が採取した「リュウグウ」のサンプルが北大にやってきた！

理学研究院 教授 冨本 尚義

助教 川崎 教行

ハワイ大学ケック宇宙化学研究所 マネージャー 永島 一秀

### 報告事項（報告者）

- ・保健科学研究所とUR都市機構が連携協定を締結

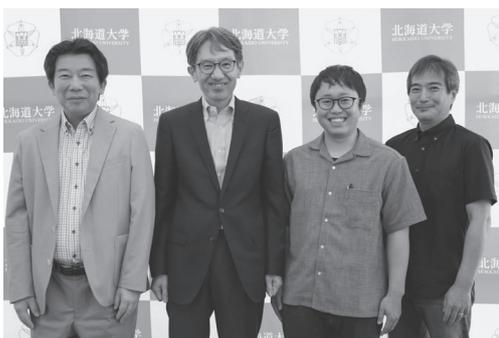
理事・副学長 吉見 宏



定例記者会見の様子



発表を行う冨本教授



当日の発表者と吉見理事・副学長  
（左から吉見理事・副学長、冨本教授、川崎助教、永島氏）



研究施設見学会の様子

# サステナビリティ推進機構設置に伴う記者会見を開催

7月29日(木)、本学にサステナビリティ推進機構を設置することに伴い、記者会見を開催しました。吉見 宏理事・副学長(広報室長)の進行のもと、横田 篤理事・副学長(サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部長)を中心に、「SDGsの取組」から「世

界の課題解決」に貢献するため、またグリーン・スマート・サステナブルキャンパス(教育、研究、社会連携及び自然環境と調和したキャンパス整備を通して、持続可能な社会の構築に貢献する大学)の実現を目指すために、8月1日付けでサステナビリティ推

進機構を設置することを発表しました。当日は北海道教育庁記者クラブ加盟社から7名の参加がありました。発表内容は以下の通りです。

(総務企画部広報課)

13:30~14:30 会場：北海道大学百年記念会館

## 発表事項(発表者)

### ・サステナビリティ推進機構の設置

「SDGs達成への取り組み」から「世界の課題解決」に貢献する組織改革

横田 篤 理事・副学長(サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部長)

出村 誠 教授(総長補佐(SDGs担当))

岩淵 和則 教授(総長補佐(国際担当))

阿部 弘 URAステーション長



記者会見会場



発表を行う横田理事・副学長



当日の発表者と吉見理事・副学長  
(左から吉見理事・副学長、横田理事・副学長、出村教授、岩淵教授、阿部URAステーション長)



会見後の追加取材の様子

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

**北大フロンティア基金情報**  
**基金累計額**（7月31日現在）

30,720件 5,576,900,248円

## 7月のご寄附状況

法人等9社、個人218名の方々から37,184,913円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社アミノアップ、弁護士法人小畑法律事務所、水ing株式会社、医療法人社団積信会三村病院、株式会社ナカジマ薬局、北海道労働保健管理協会、株式会社練成会

### 寄附者ご芳名（個人）

|       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合川 正幸 | 青木 俊介 | 青柳 明子 | 赤木 広徳 | 縣 正樹  | 阿多 郁子 | 阿部 雅史 | 阿部 芳久 |
| 有坂 尚子 | 五十幡玲子 | 池田 潤  | 池田 陽一 | 石井 哲夫 | 伊勢谷尚史 | 市川 静夫 | 伊藤 和行 |
| 稲垣 雅人 | 乾 賢   | 猪股 哲美 | 猪股 路子 | 井原 博  | 入澤 秀次 | 岩田 銀子 | 岩津 忍  |
| 植田 紀子 | 上野 裕美 | 緑記 和也 | 大澤 恵利 | 大谷 恭久 | 大津奇誠一 | 大原 結  | 岡澤 好高 |
| 小笠原憲生 | 小川 恭孝 | 奥田 英信 | 奥平香奈栄 | 長田 健  | 長部 克典 | 小田原一史 | 小畑 真  |
| 片平 忠志 | 片山 琢  | 加藤 俊介 | 加藤 憲義 | 金川 眞行 | 河村 妙子 | 河本 充司 | 菊池 錬哉 |
| 北浦 雅行 | 北口 久雄 | 北林 博憲 | 衣川 暢子 | 桐澤 俊夫 | 工藤 理人 | 黒瀬 涉  | 黒田 潔  |
| 小林 賢人 | 小林 広武 | 小松 弘幸 | 齊藤 晋  | 齊藤 久  | 坂本 大介 | 崎山 広大 | 佐野 仁香 |
| 三升畑元基 | 汐川 雄一 | 塩澤 雅代 | 繁澤 良  | 志済 聡子 | 柴 泰純  | 渋谷 正人 | 宿田 恵子 |
| 申 偉秀  | 神 秀典  | 菅原 新也 | 菅原 修孝 | 杉江 和男 | 杉田 弘也 | 鈴木 大介 | 鈴木 貴之 |
| 鈴木 良子 | 須藤 久男 | 諏訪 文洋 | 関崎 徳彦 | 関根 君恵 | 瀬名波栄潤 | 田海 秀穂 | 高井 保秀 |
| 高瀬登志彦 | 高田喜代子 | 田方 秀次 | 高橋 里佳 | 竹内 義治 | 田中 啓司 | 田中 治恵 | 田中 諒  |
| 千田 式子 | 陳 理弘  | 土家 琢磨 | 土屋 裕  | 手島 勝一 | 寺澤 睦  | 峠館 幸子 | 戸田 純子 |
| 富澤俊太郎 | 富永 崇司 | 豊田 威信 | 中井 光野 | 永田 晴紀 | 中塚 英俊 | 中西 孝  | 長本 克義 |
| 中屋 耕  | 南部 光宏 | 新美 大伸 | 西岡健太郎 | 西田 実弘 | 西谷 昌弘 | 長谷 成人 | 花井 宏之 |
| 花田 秀一 | 浜坂 剛  | 浜田 満  | 林 克郎  | 林寺 正俊 | 原 誠   | 平山 智史 | 福士 幸治 |
| 福永 悟郎 | 藤澤 裕子 | 藤澤 聖克 | 藤山 紀之 | 鮎田 栄治 | 船津 保浩 | 星野 謙蔵 | 本田 直之 |
| 前田 博  | 牧 裕美  | 政氏 伸夫 | 町田 貴裕 | 松井 惇  | 松田 健一 | 松原 謙一 | 松本 啓吾 |
| 宮田 知己 | 宮田 信幸 | 村上 泰一 | 村上 幸夫 | 村山 盛敏 | 毛利 慎也 | 矢嶋 剛  | 安田 哲弘 |
| 柳 隆夫  | 矢野 薫  | 山口 将一 | 山口 泰彦 | 山口 幹仁 | 山崎 知文 | 山科 直利 | 山本 潤子 |
| 山本 高志 | 山本 宏司 | 弮 和順  | 横山 考  | 吉田 広志 | 四倉 直弥 | 脇本 隆  | 分島 亮  |
| 渡部 雅子 |       |       |       |       |       |       |       |

**銘板の掲示（20万円以上のご寄附）****（法人等）**

水ing株式会社, 医療法人社団積信会三村病院, 株式会社練成会

**（個人）**

伊藤 和行, 上野 裕美, 大津寄誠一, 北浦 雅行, 申 偉秀, 杉田 弘也, 竹内 義治, 陳 理弘, 西岡健太郎,  
長谷 成人, 脇本 隆, 分島 亮

---

**ご寄附のお申し込み方法**

---

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

**①給与からの引き落とし**

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

**②郵便局または銀行への振り込み**

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

**③現金でのご寄附**

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

**④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附**

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

# 令和3年度北海道大学公開講座（全学企画） 「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」を開催

6月3日（木）から7月29日（木）まで、本年度の公開講座（全学企画）をオンラインで開催しました。昨年度、本公開講座は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて中止していたため、2年ぶりの開催となりました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、新たなリスクに対して備えることの難しさを改めて実感したことを受け、昨年度予定していたテーマ「備える」に、新たな課題を副題に加え、「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」を共通のテーマと

し、公開講座実施専門部会（座長：尾崎一郎法学研究科教授）において全学から選ばれた8人の講師が、それぞれの専門分野からこの共通テーマを受け止める形で講義を行いました。

講義では、感染症をはじめとし、災害や気候変動、少子高齢化など、自然と社会の急激な変化への「備え」に関する、最新の研究や社会の動向についてとりあげました。各回の講義後の質疑の時間には、受講生からの熱心な質問があり、受講生の意欲の高さが感じられるとともに、講義内容の理解を深

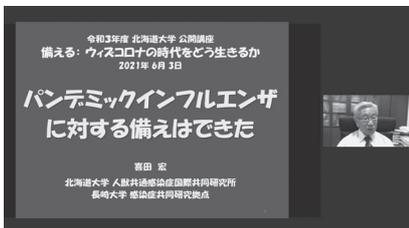
める貴重な時間となりました。

オンライン開催により、遠方からの参加も可能となり、道内外から各回109名～153名、延べ1,075名の方が本講座を受講しました。全学企画だからこそ提供できる本講座の学びについて、本年度も多く受講者から、講義内容の幅広さと深さ、講師のわかりやすい説明に高い評価が寄せられていました。

（学務部学務企画課）

## 各回の講義題目と講師

- 第1回「パンデミックインフルエンザに対する備えはできた」  
（ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授 喜田 宏）
- 第2回「地球温暖化って本当？どんなことが起こるの？」  
（低温科学研究所 教授 大島 慶一郎）
- 第3回「北海道を襲う超巨大地震にどう備える？」  
（理学研究院 教授 高橋 浩晃）
- 第4回「食料生産の未来に備える ～農業研究開発制度の今～」  
（農学研究院 講師 齋藤 陽子）
- 第5回「心はいつも未来に備えている「意識」研究の最前線」  
（文学研究院 教授 田口 茂）
- 第6回「がんに克つ ～現代の武器を知る～」  
（北海道大学病院 准教授 樋田 泰浩）
- 第7回「人生100年時代に備える ～地域福祉・介護の動向と展望～」  
（公共政策学連携研究部 教授 中園 和貴）
- 第8回「縄文文化と「そなえる」をめぐる考古学」 （文学研究院 教授 小杉 康）



喜田ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授による講義



質疑応答を行う小杉教授（写真右）と司会の三上直之・高等教育推進機構准教授（写真左）



尾崎公開講座実施専門部会座長による閉講式での挨拶

# 令和3年度出入国管理制度説明会を Webexオンライン会議システムで実施

7月8日（木）、本学において出入国管理制度説明会を開催しました。

本説明会は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、本協議会関係者向けに最新の正しい出入国管理制度の情報を提供し、制度への理解を深めることを目的とし毎年開催しているものです。今回の参加者は道内各地の37団体から計139名と過去最多となりました。

また、今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面での開催を中止し、昨年度同様、オンライン会議システム「Webex」を利用して実施しました。開会に先立ってWeb会議システムの操作方法を説明するオリエンテーションを導入するなど、参加者に配慮して進行了しました。

説明会では、法務省札幌出入国在留管理局審査部門の加瀬秀幸統括審査官

から「出入国管理制度、申請取次制度について」、石川悠人審査官から「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」の講義があり、最新の入国者の動向や制度について説明がありました。

次に北海道農政部生産振興局畜産振興課の本間慎太郎主査から「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛の取組について」、農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課の阿部麻美技官から「肉製品の違法持ち込み防止に向けて」の講義があり、家畜伝染病の傾向と対策及び肉製品の持ち込み厳格化に関する内容について説明がありました。

質疑応答は、参加者から事前に質問の受付を行いました。すでに査証が発行されているものの入国できていない留学生に対する措置についての質問

等、日頃から留学生関連業務に従事している参加者からの具体的な質問が多く寄せられ、大変有意義な説明会となりました。

本説明会は、「申請等取次申出書」の経歴書に記入できる「出入国管理行政に関する研修会等」に該当するため、申請等取次者証明書の交付を希望する参加者には研修会受講証明書を発行しています。

昨年度同様、今回も100名を超える規模でのWeb会議システムを利用した説明会となり、遠隔地からも複数人の参加が可能となるなど、参加者にとってもメリットがあるWeb開催を、今後さらに活用していきます。

（学務部学生支援課）



オンライン会議の様子



札幌出入国在留管理局の加瀬統括審査官による説明



札幌出入国在留管理局の加瀬統括審査官及び石川審査官による質疑応答



北海道農政部の本間主査及び農林水産省動物検疫所の阿部技官による説明

# 令和3年度北海道大学新渡戸賞受賞者を決定

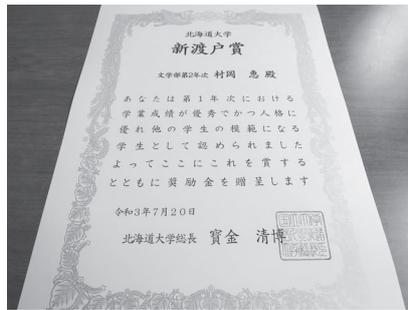
令和3年度北海道大学新渡戸賞を、13名の学生が受賞しました。

新渡戸賞は優秀な学部学生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次学生に対して、賞状と奨励金が贈呈されます。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授賞式を挙げる事ができないため、受賞者には賞状を郵送しました。同封した山口淳二理事・副学長からの挨拶文には「これを契機に、皆さんには新渡戸博士の理念を受け継ぎ自らの教養を深め、これからも大学生活をより一層有意義なものにすると共に、世界に

羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉がありました。

(学務部学生支援課)



新渡戸賞賞状

## 受賞者

|          |        |
|----------|--------|
| 文学部      | 村岡 恵   |
| 教育学部     | 高松 志帆  |
| 法学部      | 皆川 陽祐  |
| 経済学部     | 梶野 智暉  |
| 理学部      | 濱島 充長  |
| 医学部 (医)  | 戸田 壮太郎 |
| 医学部 (保健) | 佐渡 優利香 |
| 歯学部      | 川田 梨央  |
| 薬学部      | 松倉 光里  |
| 工学部      | 岩井 望   |
| 農学部      | 安室 美陽  |
| 獣医学部     | 寺島 寧来  |
| 水産学部     | 佐々木 健太 |

# DEMOLA HOKKAIDO 「北大チーム」がテレビで紹介

7月20日(火)、テレビ北海道で現在放映中の「5時ナビ」内「ACT for HOKKAIDO」というコーナーでDEMOLA HOKKAIDOの北大チームの取り組みが紹介されました。

DEMOLAはフィンランド生まれの産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界18カ国、60以上の大学が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。

文部科学省の次世代のアントレプレナーを育成するためのEDGE-NEXT事業の一環として2018年から日本では初めて、北海道大学が導入しました。約3年半をかけて17社20課題に取り組みました。これまでに参加した学生は、

北海道大学をはじめ小樽商科大学、北海道情報大学、藤女子大学や札幌大谷大学など様々な地域の13大学から集まり、延べ140名になりました。2020年度からフルオンラインでの開催体制も整え、東京理科大学や海外在住の学生の参加も実現しました。

今回の放送では、6名の学生が約3ヶ月という短い期間の中でオンラインミーティングを重ね、未来に繋がる研究開発に向けて、ムーンショット目標を探求するために、本学のMoon Villageチームの先生たちと協力して、2100年のエネルギー活用に向けたアイデアを創造する様子がテレビで紹介されました。

約半分が海外留学生という国際的なチームで、様々な言語が飛び交う中、未来のために考え抜いた取り組みの様

子は以下のURLからご覧いただけます。  
[https://www.youtube.com/watch?v=ejMOO\\_mn9w8](https://www.youtube.com/watch?v=ejMOO_mn9w8)



放送内容はこちら

現在、DEMOLAにご参加いただける企業の募集を行っています。ご興味のある方は産学地域協働推進機構DEMOLA事務局 (demola@mcip.hokudai.ac.jp) までお問い合わせください。

一緒にイノベーションアイデアを生み出す共同創造の場を体感しましょう。

(産学・地域協働推進機構)

# 「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」 設立総会に参加

7月29日（木）に、カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション（以下、大学等コアリション）の設立総会が開催され、本学からは資金清博総長が出席しました。

大学等コアリションは文部科学省、経済産業省、環境省の3省が合同で主導するもので、設立総会には、高橋ひなこ文部科学副大臣、江島 潔経済産業副大臣、笹川博義環境副大臣及び本学を含め参加意向を表明した188機関のうち181機関等が参加し、今後の活

動案や規約案が承認されました。

本学は13ある幹事機関の一つとして参加し、資金総長から、本学のこれまでのサステナビリティに関する活動を踏まえ、大学等コアリションへの抱負を述べました。

今後、本学は、大学等コアリションに参加する国内外の機関等と連携し、カーボンニュートラルの達成に向けて活動を推進していきます。

（施設部施設企画課）



設立総会で抱負を述べる資金総長

# 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」による オンライン日本留学フェアを開催

本学ロシアモスクワオフィスでは、文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として、6月25日（金）～27日（日）の3日間にわたり「オンライン日本留学フェア」を開催しました。本フェアには大学や語学学校等31機関が参加し、3日間で延べ約80名が参加しました。参加者からは、大学のみならず日本語学校についての情報も得ることができ、大変有意義だったとの感想がありました。

これまでのフェアでは、人文社会学系の参加者が大半を占めていましたが、今回は、コンピュータサイエンス、工学、農学、医学、理学などが約4割となり、理系においても日本への留学に対する関心が広がっていることがうかがえる結果となりました。留学の目的としては、修士号取得が27.1%、次いで学士号取得と語学のスキルアップが共に17.5%、博士号取得は13.5%となっており、2018年の事業開始当初から、一貫して修士課程への入学希望が最も多い状況が続いています。他方で、留学フェアに求める情報は、最も多かった奨学金関連情報から、出願方法や受験に向けての準備に

関する情報に変化してきており、日本への留学が以前より具体的な進路として検討されるようになってきていると考えられます。また、オンライン留学の可能性についての質問も徐々に増えており、学生の間では、渡航機会をうかがいつつも、オンライン留学の可能性も視野に入れた動きが出てきています。

今後も、日本留学の情報発信拠点として関係機関や大学等と連携しつつ、コロナ禍においてもオンラインを活用した情報発信に積極的に取り組んでいきます。

参加機関

在ロシア日本国大使館、北海道大学、北見工業大学、秋田大学、東京外国語大学、東海大学、新潟大学、金沢大学、福井大学、名古屋大学、名古屋芸術大学、名古屋商科大学、京都大学、京都先端科学大学、近畿大学、兵庫県立大学、奈良先端科学技術大学院大学、島根大学、広島大学、長崎大学、札幌ランゲージセンター、ARC日本語学校、東京育英日本語学院、メロス言語学院、株式会社ライセンスアカデミー、中央情報専門学校日本語本科、KOYO国際学院、相模国際学院、セントラルジャパン日本語学校、ECC国際外語専門学校、Study in Japan guide（ロシアの民間企業）

（国際部国際連携課）

留学フェアポスター

# The Japan-UK higher education dialogue 2021に 横田理事・副学長が出席

7月20日（火）に“The Japan-UK higher education dialogue 2021”がオンライン開催され、横田 篤理事・副学長が出席しました。この対話は、国立大学協会と英国大学協会が共同開催したもので、コロナ禍における両国の高等教育の動向及び知見を共有し、新たな時代の大学の在り方に関して意見交換を行うことを目的に、英国・日本あわせて31大学から34名が参加しました。

今回は、“Opportunities and challenges for higher education collaboration in the new era”をメインテーマとして2つのセッションが行われました。

セッション1「大学へのチャンスと課題：日本・英国からの視点」では、神戸大学の中村 保理事・副学長がAI分析を活用した学生個人々人に対応可能なオーダーメイド型教育支援システ

ムの事例を紹介したほか、グラスゴー大学のKonstantinos Kontis東アジア担当グローバル・エンゲージメント責任者がコロナ禍における課題や収穫、今後の展望について発表しました。

また、セッション2「二国間の研究協力・モビリティの促進に向けて」では、和歌山大学の伊東千尋学長が対面とオンラインの両方を用いた学生交流プログラムであるWU CoNNECTを、ダービー大学のChris Bussell副学長がトヨタ自動車英国法人のある地元自治体と愛知県豊田市の連携に端を発する中京大学との産学官交流についてそれぞれ発表しました。

各セッションでは、事例紹介に続いて参加者が小グループに分かれて意見交換を行い、本学からは横田理事・副学長がHokkaido Summer Instituteを例に、短期の共同教育プログラムにおいても研究者交流が実施できることを

紹介するなど、活発な議論が繰り広げられました。

参加者からは、「コロナ禍により対面による学生交流や研究者交流はできなかったが、オンラインによる交流を継続して実施できたことは、ポストコロナにおける交流促進に繋がる」「資金不足が研究連携の主たる遮断要因となることから、資金確保のために既存・新規事業をアピールすることで働きかけができないか」「英国側から見て日本は魅力的な研究連携先であり、今後も共同研究拡大における協力体制や関係性を深めていきたい」とのコメントが寄せられました。

今回の対話を契機として、日英大学間の更なる交流発展が期待されます。

（国際部国際連携課）



オンライン参加する横田理事・副学長



開会挨拶をする永田恭介国立大学協会会長



開会挨拶をするJulia Buckingham CBE  
英国大学協会会長

# 令和3年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部（以下、SCM本部）は、7月9日（金）、令和3年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議をオンラインで開催しました。各部局のサステイナブルキャンパス推進員及び同補佐の他、施設部職員等合わせて76名

の出席がありました。

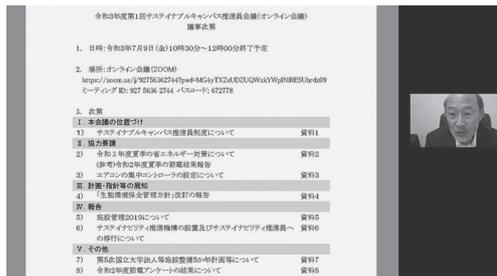
SCM本部長の横田 篤理事・副学長から開会の挨拶の後、本会議の位置付けや背景、サステイナブルキャンパス推進員等の業務内容について説明を行いました。主な議題等は下記のとおりです。

SCM本部では、今後も引き続き、部局等と連携を図りながらサステイナブルキャンパス推進に関する活動を実施してまいります。

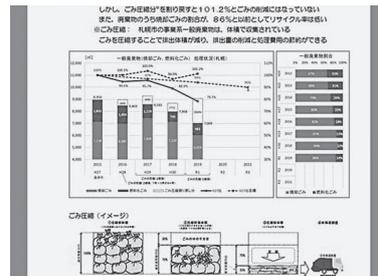
（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）

## 議題等

1. サステイナブルキャンパス推進員制度について
2. 令和3年度夏季の省エネルギー対策について
3. エアコンの集中コントローラの設定について
4. 「生態環境保全管理方針」改訂の報告
5. 施設管理2019について
6. サステイナビリティ推進機構の設置及びサステイナビリティ推進員への移行について
7. 第5次国立大学法人等施設整備5か年計画等について
8. 令和2年度節電アンケートの結果について



開会の挨拶を行う横田理事・副学長



廃棄物の適切な分別と排出量削減に関する説明資料

## ■ 部局ニュース

# 2021年度夏期国際シンポジウム「不確実性の時代のスラブ・ユーラシア研究：対話と再検討」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、7月5日（月）から7日（水）にかけて、夏の国際シンポジウムSlavic and Eurasian Studies in Times of Uncertainty: Dialogue and Reappraisalを、昨年に引き続きオンライン開催しました。パソコンの画面上で札幌と世界の研究者の距離がさらに近くなり、これまでに築いてきた研究成果や人的ネットワークを生かした様々な新しい取り組みができるようになった一方、激変する現在に飲み込まれてしまうことなく、それを過去・現在・未来のつながりの中に位置づけることのできる透徹した思考も必要です。このような問題意識から、今回のシンポジウムはZoomという新しいコミュニケーション・ツールを用いながら、多様な視点と方法論によって、過去を再検討し、先の読めない不確実性の時代である現在から未来への進路を探る対話を総合的に進めることを目的としました。

新しい取り組みとして、岩下明裕教授、宇山智彦教授、安達大輔准教授の三名がそれぞれの専門分野で現在特に再検討に値すると思われるテーマを設

定し、ユーラシア地政学、ロシア外交・国際法、中央ユーラシア史、民族問題、ロシアメディア史の計5つのセッションが組まれました。プログラムの中心となったのはコロナ禍のため来日できていない2020年度・2021年度外国人研究員による報告です。本センターの研究員や普段から関わりの深い研究者との交流機会を確保し、センターの活動の基幹を成す国際共同研究が困難な状況下でも着実に進んでいることを示しました。

シンポジウムは岩下教授、宇山教授、安達准教授それぞれが研究代表者を務める科研費プロジェクト（基盤研究（B）「「領土」をめぐる実態と社会構築：北東アジア地域の比較を中心に」、基盤研究（A）「権威主義とポピュリズムの台頭に関する比較研究」、基盤研究（B）「ロシア・旧ソ連文化におけるメロドラマ的想像力の総合的研究」）に加え、人間文化研究機構（NIHU）「北東アジア地域研究」プロジェクト、Association for Borderlands Studies日本チャプターとともに共催されました。第2セッションは、2020年7月に

部局間協定を結んだユニバーシティ・カレッジ・ロンドン・スラブ東欧研究学院（UCL SSEES）の協力を得て行われました。各セッションの参加者数は30～50名ほどで、計17か国から3日間の延べ人数で200人以上が参加する盛会となりました。

7月5日（月）

- ・第1セッション（担当：宇山）中央ユーラシア史における外交と貿易
- ・第2セッション（担当：安達）ロシア文化におけるヴァーチャル：革命前後を比較する

7月6日（火）

- ・第3セッション（担当：岩下）ロシアにとっての日本と韓国，韓国と日本にとってのロシア
- ・第4セッション（担当：岩下）ロシアにとっての主権とスペース：国際法学と政治地理学の対話

7月7日（水）

- ・第5セッション（担当：宇山）ソ連・ポストソ連空間における民族問題の再考

（スラブ・ユーラシア研究センター）

# 北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitious リーダー育成プログラム3期生修了式（6月期）を開催

6月24日（木）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（以下、ALP）3期生3名の修了式を執り行いました。

ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけでなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成する

ための教育プログラムで、特に、数理科学と科学技術コミュニケーション教育に力を入れています。2020年3月に文部科学省の補助金事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。

修了証書授与のあとプログラムコーディネーターの石森浩一郎理学院教授／ALPコーディネーター（北海道大学副学長）より祝辞があり、修了生

が挨拶を述べました。その様子を紹介します。

※詳細は大学院教育改革プロジェクトPh.Discoverウェブマガジン（<https://phdiscover.jp/>）をご覧ください。

（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院・情報科学院）

## 式次第

石森ALPコーディネーターによる祝辞

大塚 海氏による挨拶（大学院生命科学院博士課程修了）

福島綾介氏による挨拶（大学院生命科学院博士課程修了）



石森ALPコーディネーターの祝辞の様子



大塚氏による挨拶の様子



福島氏による挨拶の様子



修了生と教員の集合写真

## 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究院・医学院・医学部、歯学  
 研究院・歯学院・歯学部、保健科学研  
 究院・保健科学院・医学部保健学科、  
 北海道大学病院では、8月3日（火）  
 に北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平  
 岸）において、医学及び歯学の教育・  
 研究のため尊い御遺体をささげられた  
 御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執  
 行いたしました。

慰霊式には、寶金清博総長、畠山鎮  
 次医学研究院長・医学院長・医学部

長、八若保孝歯学研究院長・歯学院  
 長・歯学部長、伊達広行保健科学研  
 究院長・保健科学院長・医学部保健学  
 科長ら19名が参列し、参列者全員による

黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰  
 霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



参列者による黙祷



献花をする寶金総長



献花をする畠山医学部長



献花をする八若歯学部長



献花をする伊達保健科学研究院長

## UR都市機構と連携協定を締結

保健科学研究院と独立行政法人都市  
 再生機構（以下「UR都市機構」）は、  
 道内のUR賃貸住宅を拠点とし、高齢  
 者の健康寿命延伸に取り組み、多様な  
 世代が暮らしやすい地域社会を構築す  
 ることを目的として、7月8日（木）  
 に連携協定を締結しました。

現在、世界に類をみない超高齢社会  
 の日本において、加齢が最大の危険因  
 子とされる認知症への対策は喫緊の課  
 題です。

北海道の人口減少率は全国2位であ  
 り、都市部への人口の一極集中が進む  
 ことで、地方の過疎化が深刻な問題と  
 なっています。ICT・IoT等の先端技  
 術を活用することで、認知症の早期発  
 見・予防的介入、共生が可能な地域コ  
 ミュニティを北海道において実現する

ことができれば、国内他地域でも展開  
 可能なモデルケースとなることが期待  
 されます。

認知症の早期発見及び認知症の予防  
 的介入方法の開発、共生が可能な地域  
 コミュニティと認知症のリハビリテー  
 ションに精通する専門職を中心に、UR  
 都市機構が管理するUR五輪団地（札  
 幌市南区）をフィールドとして、以下  
 の3つの研究開発を推進する予定です。

1. 非接触センサー、ウェアラブルデ  
 バイス、IoTデバイスから得られる  
 日常行動データに基づいた認知機能  
 の評価方法の開発
2. スマートフォンやタブレット端  
 末、Web会議システムなどのICTを  
 活用した遠隔式での認知機能評価と  
 介入プログラムの開発

3. 認知症の予防的介入を必要とする  
 地域コミュニティと、認知症のリハ  
 ビリテーションに精通する専門家と  
 のマッチングの場の創出

HPはこちら：

<https://www.hs.hokudai.ac.jp/archives/28494/>

（保健科学研究院）



調印式の様子

## 鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪問

7月26日（月）、鈴木直道北海道知事が北海道大学病院を訪れ、秋田弘俊病院長、南須原康行副病院長らと面談しました。

鈴木知事からは、道内で新型コロナウイルス感染が拡大した第4波の際に、本院が多くの病床を確保し患者の受け入れに努めたこと、さらに、感染者専用の病床を用意した産科では札幌

圏で感染した妊婦の約8割を受け入れて治療したことについて感謝の意が伝えられ、引き続き協力の依頼がありました。

これに対し秋田病院長は、今後来るであろう第5波に対しても様々な面でコロナ対応に尽力していきたいと述べました。

この後、鈴木知事は産科の病棟を視

察し、渡利英道教授や馬詰 武講師から受け入れの現状や課題について説明を受けたあと、看護師や医療従事者へ直接感謝とねぎらいの言葉をかけられ、訪問を終えました。

（北海道大学病院）



面談後の記念撮影（左から北海道保健福祉部人見嘉哲医療参事、馬詰講師、鈴木知事、秋田病院長、南須原副病院長、渡利教授、高橋久美子看護部長）



産科病棟での撮影

## 工学研究院産学連携強化説明会を開催

7月15日（木）、工学研究院において産学・地域協働推進機構のサポートのもと、工学研究院産学連携強化説明会を開催しました。工学研究院においては、2016年度以来、産学連携への取り組み強化を目的に勉強会を実施しながら、産学・地域協働推進機構の関係者もメンバーに加えた工学研究院産学連携アドバイザーチームを立ち上げ、10名程度の教員がその支援を得て企業とも対等に共同研究契約を進めるなど、効果的な活動を実施してきました。一方で全学的な取り組みとして、

体制の強化」が打ち出され、その具体策として、工学研究院での活動をより活性化させ、全学的に横展開することとなっています。

当日はまず、増田隆夫理事・副学長から本学の産学連携強化の方針について説明をいただき、その後、産学・地域協働推進機構産学連携推進本部の寺内伊久郎本部長から、本学の産学連携制度など本学教職員が最低限知っておきたい産学連携に関するポイントについて説明をいただきました。最後に工学研究院の箆橋雄二客員教授から工学研究院産学連携アドバイザーチーム

の活動内容や工学研究院における産学連携支援体制について説明があり、本説明会は終了しました。

今回の説明会は、新型コロナウイルス感染症対策として、会場の換気や間隔をあけた座席配置等を行ったほか、オンラインによる参加も可能とし、関係教職員約40名が参加しました。参加者は、各説明者の共同研究や特許出願に関する話題に熱心に聞き入り、改めて産学連携強化の重要性を深く認識することができました。

（工学研究院）



増田理事・副学長



寺内産学連携推進本部長



箆橋客員教授

## 株式会社クレスコ 代表取締役社長執行役員 根元浩幸氏に感謝状を贈呈

情報科学研究院では、令和3年3月、株式会社クレスコの代表取締役社長執行役員、根元浩幸氏より、1億円のご寄附を賜りました。

本寄附金は、同社のSDGsの取組みの一環として、次世代の人材育成の支援及びAI（人工知能）技術に関する研

究の促進を目的としたものです。

このため、本研究院では6月22日（火）に感謝状贈呈式を行い、長谷山美紀情報科学研究院院長より、本研究院の研究活動に対する深いご理解とご支援に対し、感謝状を贈呈しました。

本研究院では、変革の時代に新風を

巻き起こし、新しい社会を創造することができるようご厚志を有効に活用させていただきます。

（情報科学研究院）



写真左から長谷山院長、根元代表取締役社長執行役員

# 「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」開設記念式典 及びセミナーを開催

農学研究院は、総合的なワインの研究と教育に取り組む寄附講座「北海道ワインのヌーヴェルヴァーグ研究室」を4月1日（木）に開設しました。寄附講座設置の背景、目的及び今後の研究活動内容について広く周知を図り、北海道におけるワイン教育研究の機運を高めるため、7月31日（土）に農学部大講堂において、開設記念式典及びセミナーを開催しました。コロナウィルス感染拡大防止のため、限られた参集範囲にも関わらず、行政機関、経済団体、民間企業、報道関係者及びワイン製造に関連する技術者や大学関係者など、北海道内外から60名の参加があり、オンラインでは道内ワイナリー関係者をはじめとした120名が参加しました。

開設記念式典では、西邑隆徳農学研究院長の挨拶に続き、来賓代表として、土屋俊亮北海道副知事、大見英明生活協同組合コープさっぽろ理事長及び荒井 功株式会社ニトリホールディ

ングス上席執行役員から祝辞を賜りました。続いて、寄附のあった団体及び個人へ西邑研究院長から感謝状が贈呈され閉式となりました。

開設記念セミナーでは「ワイン産地北海道の未来に向けて」と題し、曾根輝雄教授から寄附講座での活動に対する意気込みについての決意表明講演がありました。続いて後藤奈美日本ブドウ・ワイン学会会長から「日本のワイン、北海道のワイン」、奥田 徹山梨大学ワイン科学研究センター長から「北海道のワインに期待して」と題してそれぞれ講演がありました。

パネルセッション「10年後に北海道が真のワイン産地となるために、寄附講座に期待すること」では、パネリストとして日本ブドウ・ワイン学会会長の後藤氏、田辺由美ワインアンドワインカルチャー株式会社代表取締役社長、山梨大学の奥田センター長、齋藤浩司北海道ワイン株式会社取締役営農部長、株式会社NIKI Hillsヴィレッジ

の磨 直之氏、阿部眞久NPO法人ワインクラスター北海道代表理事及び生活協同組合コープさっぽろの星野浩美氏をお招きし、10年後の北海道のワイン産業のあるべき姿について、コーディネーターの曾根教授を含めて討議しました。最後に野口 伸農学研究院副研究院長から閉会の挨拶を行いました。

今後寄附講座では、北海道のワイン産業の持続的な発展を志向し、研究者と、醸造用ブドウ生産者やワイナリー、地方公共団体との密な連携を図りながら、ワイン産業の持続性の向上のための融合研究を行い、北海道、ひいては全国、海外の新興ワイン生産地域に向け、その研究成果を発信する予定です。また、次代のワイン生産を担う人材の育成を通じて、産学官の連携によるワイン専門教育拠点構築のための基盤となる取り組みを行います。

（農学研究院）



西邑研究院長の主催者挨拶



土屋副知事の祝辞



寄附者との集合写真



曾根教授の決意表明講演

# メディア・コミュニケーション研究院で公開講座 「関西弁の音声学」を開催

メディア・コミュニケーション研究院では、6月1日（火）から6月29日（火）にかけて公開講座「関西弁の音声学」を開催しました。なお、今回はコロナ禍のため5回の講座をすべてオンラインで行うことになりましたが、本講座は道民カレッジ連携講座となっており、札幌市民の方を中心に多数の受講生に参加いただき、北大生や本学卒業生も聴講生として参加しました。

講座は毎週火曜日の午後6時半から午後8時まで行い、年配の受講生からも毎回積極的に発言がありました。受講生の多くは北海道出身者でしたが、中には大阪府、長野県、三重県出身の方もいました。

講座のテーマは「関西弁の音声学」としていましたが、各回の講座の前半には、関西弁にまつわる歴史的、文化的な解説も行いました。

第一回目は、「関西、近畿、ミヤコ」の範囲はどこかということからスター

トし、後半には動詞の発音の違いを、標準語と関西弁を対比しながら説明しました。

第二回目は、京都の「左京区、右京区」、古い国名の「越前、越中、越後」「筑前、筑後」「上総、下総」等の配置がどのような原則で行われたかを説明し、後半の発音の時間には動詞の否定形について標準語、北海道弁、関西弁を対比して説明しました。

第三回目は、「公用語、共通語、標準語、方言」の違いや日本語の標準語誕生に関西弁がどのように関わっているかについて説明しました。また、発音の時間には、標準語モードでの都道府県の読み方にルールがあることも説明しました。

第四回目は、一つの語彙がどのように広がっていくかについて、柳田国男の『蝸牛考』や松本修の『全国アホ・バカ分布考』などを参考に説明し、発音の時間では、関西弁モードによる日

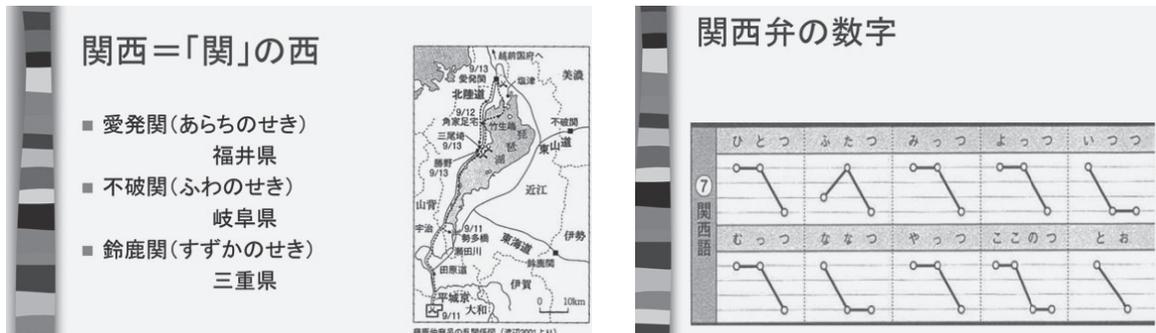
本の都道府県の読み方の練習を行いました。

最後となる第五回目は、数字の読み方について説明しました。日本固有の数字と漢語数字の違い及び標準語と関西弁での読み方の違いについても説明しました。

関西弁についての公開講座は今回が二回目でしたが、オンラインで行ったことにより、参加者のみなさん一人一人の発音を聞くことができたのは、貴重なものとなりました。また、幼少期を大阪で過ごし、現在は札幌在住の方が、かなり正確に関西弁のアクセントを保持されていたのは新鮮な驚きでした。

今回のオンライン開催により、受講生参加型の形式となって、大変有意義な公開講座になりました。

（メディア・コミュニケーション研究院）



授業の様子

## 子育て世代支援スペース「北水キッズクラブ」を設置

水産科学研究院では、函館キャンパスにおけるダイバーシティ研究環境整備を推進するため、子育て世代の教員が利用する一時保育スペースとして「北水キッズクラブ」を、7月1日（木）、函館キャンパス構内の厚生会館内に設置しました。

「北水キッズクラブ」とは、教員が業務の都合により一時的に子どもの預かりを必要とする場合に、自治体が実

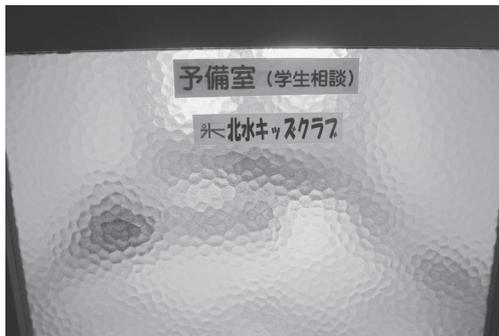
施する子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を利用して託児するために使用するスペースとして本学が提供する部屋をいいますが、スペースの有効活用の観点から「学生相談予備室」を複数目的で使用する形で設置しています。

室内には、保育に必要な簡易ベッド及び子供用机・椅子、安全な環境確保等のためのガードフェンス、クッショ

ンマット及び加湿空気清浄機等を整備しています。

なお、今回の整備にあたっては、人材育成本部が実施する「部局等が一時保育スペースを設置する際の物品購入補助」支援事業の支援を受けました。

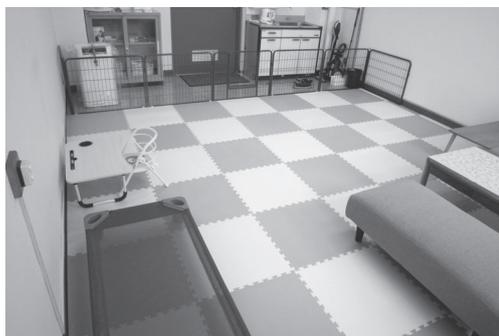
（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



室名表示



室内風景（その1）



室内風景（その2）



予備のタオル類

## 賞味期限が近づいた「災害備蓄用保存パン」を配付

水産科学研究院では、函館キャンパス管理研究棟・備蓄倉庫に保管中の「災害備蓄用保存パン」が更新されたことから、本年9月に賞味期限の到来する既存「保存パン」の有効活用を図るため、7月12日（月）～21日（水）の8日間、函館キャンパスで学ぶ全ての学生（水産学部・水産科学院・環境科学院・国際食資源学院等の学生 計782人）を対象として「保存パン」を1人2缶ずつ配付しました。

8日間で「保存パン」を受け取った学生は442人で、配付率は56.52%となりましたが、受け取った学生からは、「初めて食べたけど、意外に美味しかった!」「パンが残ったときは、また配って欲しい。」など、好意的な意見がありました。

また、学生に配付することができなかった分も含めた残りの「保存パン」は、①災害備蓄食料の必要性を啓蒙するため函館キャンパスの全教職員に対

して配付、②食品ロス削減のため、家庭や企業等から廃棄対象となる食品を集めて、必要とする施設、団体及び家庭に届けている「フードバンク道南協会」に対して、昨年9月に締結した「食品の譲渡等に関する合意書」に基づき提供、③希望する学生に再配付、廃棄することなく有効活用しました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



配付会場入り口



最初に受け取った学生



フードバンクへ提供



練習船乗組員へ配付

## 低温科学研究所が中谷宇吉郎 雪の科学館と連携協定を締結

7月23日（金）、低温科学研究所は石川県加賀市の中谷宇吉郎 雪の科学館と連携協定を締結しました。本協定は、協力関係を深めることにより、研究成果の発信及び低温科学の啓蒙や地域振興等、互いの発展に寄与することが目的です。

中谷宇吉郎 雪の科学館で行われた調印式において、低温科学研究所の福井 学所長は「中谷宇吉郎博士は低温科学の礎を築いた研究者であり、中谷博士がまいた研究の種は今も受け継がれている。この連携協定により、研究成果を分かりやすく発信し、科学の面白さを多くの方に知ってもらいたい」と

と抱負を述べました。

また、中谷宇吉郎 雪の科学館の古川義純館長は、「この協定で、低温科学研究所の研究成果を活発に広報できるようになり、両者の発展が期待できる。雪や氷の研究が、防災など私たちの生活と密接に繋がっていることを伝えたい」と発言されました。

中谷宇吉郎 雪の科学館では、7月22日（木）から9月21日（火）の期間中、連携協定締結記念企画として特別展示「雪と氷の結晶 中谷の実験から宇宙実験まで」が開催されています。

7月24日（土）には、低温科学研究所 渡部直樹教授による特別展示開催

記念講演「宇宙の水～どこで生まれて、どこにあるの？何かの役に立っているの？」（オンライン同時開催）が行われ、盛況のうちに終了しました。本講演中に感じた疑問を熱心に質問する聴講者や、講演会後に多くの聴講者が科学館内の展示に興味深く観察し、関心を深めている様子が見られる等、研究成果を発信する貴重な機会となりました。

本協定により、両者の交流がますます活発に行われることが期待されます。

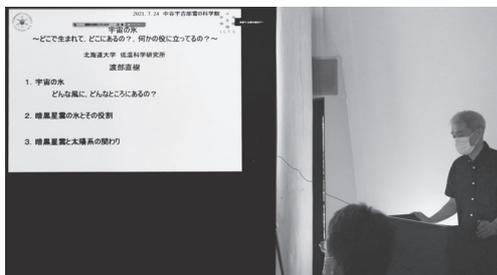
（低温科学研究所）



調印後の福井所長（左）と古川館長（右）



調印式における関係者集合写真



渡部教授による記念講演



特別展示の様子

## 附属図書館でMendeleyオンライン講習会を開催

附属図書館では6月21日（月）、24日（木）、29日（火）にエルゼビア・ジャパン株式会社の井上淳也氏を講師にお招きし、Mendeley（メンデレー）オンライン講習会をZoomで開催しました。

Mendeleyは、学術文献の管理とオンラインでの情報共有を目的とした無料の文献管理ツールで、文献を多く管理する必要のある学生や教員からも注目されています。

Mendeleyの利用者には留学生等も含むことから、21日及び29日は日本語による解説、24日は英語による解説で講習会を実施しました。専門の講師から直接説明を聞くことができる貴重な機会ということもあって、参加者数は日本語解説の21日で104名、29日で81名、

英語解説の24日が52名と、あわせて237名の参加があり、多くの方から高い関心が寄せられていることがうかがえました。

本講習会は、アカウントの取得からプラグインのインストール、実際の文献の管理方法までMendeleyの使い方が一通りわかる内容となっており、特に、Mendeley上で管理した文献情報を論文やレポート作成のために参考文献リストとして編集する方法なども習得できることから、Mendeleyを初めて使うという学生のみならず、論文を多く執筆する教員にとっても、非常に有意義な講習会となりました。

（附属図書館）

ポスター

## 「ようこそ北大へ！新生活を彩る，役に立つ，やる気がでる！おすすめ本」図書展示を開催

5月6日（木）から7月2日（金）まで、附属図書館（北図書館）は「ようこそ北大へ！新生活を彩る，役に立つ，やる気がでる！おすすめ本」図書展示を開催しました。これは北大生協書籍部と連携して実施したものです。

新入生向けに、新生活をより豊かに

してもらおうと「アカデミックスキル」、「ライフスキル・コミュニケーション」、「新生活応援」、「北海道」の4つのカテゴリーに分けて展示を行いました。また生協のおすすめ本にはPOPを添え、自分の手元に長く置きたい本については店頭で購入できること

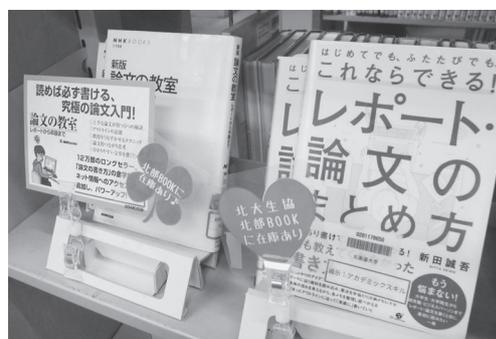
を紹介しました。

期間中は展示図書261点のうち237点が借りられ、学生の新生活に大いに役立ったことが窺えました。

（附属図書館）



図書展示の様子



POPを添えた展示図書

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 経営協議会（令和3年6月11日）

- 議 題・第4期中期目標・中期計画について
- ・新たな年俸制の導入及び業績評価制度等の見直しについて
  - ・令和2事業年度決算について
  - ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
  - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
  - ・令和4年度概算要求施設整備事業について
- 報告事項・令和4年度概算要求について
- ・令和2年度資金の運用状況について
- そ の 他・北海道大学におけるワクチンの職域接種について
- 意見交換・北大の「SDGs戦略」について
- 

### 役員会（令和3年7月5日）

- 議 案・次世代研究者挑戦的研究プログラムの申請について
- 協議事項・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・総長補佐の任命について
- ・令和2年度内部監査報告について
  - ・第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について
  - ・全学運用教員の実施状況報告について
  - ・本学における新型コロナワクチン大学拠点接種（職域接種）の実施について
- 

### 教育研究評議会（令和3年7月13日）

- 議 題・教員の懲戒について
- 

### 教育研究評議会（令和3年7月14日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- ・第4期中期目標・中期計画（素案）について
  - ・新たな年俸制の導入及び業績評価制度等の見直しについて
  - ・令和4年度概算要求事項について
  - ・サステイナビリティ推進機構の設置について
  - ・北海道大学行動規範の策定について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・総長補佐の任命について
- ・学生の停学の解除について
  - ・令和3年度部局評価配分事業について
  - ・令和2事業年度決算について
  - ・自立型Community構想について
  - ・産業創出講座等の設置（更新）について
  - ・第3期中期目標期間（4年目終了時）の業務の実績に関する評価結果について
  - ・全学運用教員の措置について
  - ・全学運用教員の実施状況報告について
- 

### 経営協議会（令和3年7月19日）

- 議 題・令和4年度概算要求について
- 報告事項・国立大学協会「第4期中期目標期間へ向けた国立大学法人の在り方について」の公表について
- 

### 役員会（令和3年7月26日）

- 議 案・新たな年俸制の導入及び業績評価制度等の見直しについて
- ・北海道大学行動規範の策定について
  - ・サステイナビリティ推進機構の設置について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
  - ・第4期中期目標・中期計画（素案）について
  - ・クロスアポイントメントの適用について
  - ・令和4年度概算要求の提出について
  - ・SCSK北海道株式会社との連携協定締結について
  - ・令和4年度医学部医学科の臨時定員増について
- 協議事項・クロスアポイントメント制度の改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- 報告事項・創成研究機構による構成組織の研究活動等の評価結果について
- ・時間外労働実績について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和3年8月1日海大達第112号)

教育、研究及び社会連携並びに自然環境と調和したキャンパス整備を通して、持続可能な社会の構築に貢献する大学を実現するため、本学に運営組織としてサステナビリティ推進機構を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(令和3年8月1日海大達第113号)

### 国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

(令和3年8月1日海大達第116号)

サステナビリティ推進機構を設置すること及び定義規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学サステナビリティ推進機構規程

(令和3年8月1日海大達第114号)

サステナビリティ推進機構を設置することに伴い、機構の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学における北大発ベンチャー称号授与規程の一部を改正する規程

(令和3年8月1日海大達第115号)

北海道経済の発展に寄与するため、企業に対する称号の授与の基準を見直すこと及び称号の名称を変更することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 表敬訪問

### 海外

| 年月日   | 来訪者                     | 来訪目的        |
|-------|-------------------------|-------------|
| 3.7.6 | 在ザンビア日本国大使館 水内龍太 特命全権大使 | 両国の交流に関する懇談 |



水内龍太 在ザンビア日本国特命全権大使（中央左）

（国際部国際連携課）

## 人事

令和3年8月1日付発令

| 新職名（発令事項）   | 氏名  | 旧職名（現職名）                                     |
|---|---|--|
| <b>【経営協議会委員】</b><br>（期間：令和5年7月31日まで）  | 渡辺 美代子  | 国立研究開発法人科学技術振興機構副理事                          |
| <b>【部局長・施設長等】</b><br>大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長<br>（期間：令和5年7月31日まで）  | 岩谷 将  | 大学院公共政策学連携研究部教授                              |
| <b>【教授】</b><br>産学・地域協働推進機構教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授<br>国際連携研究教育局教授 | 寺内 伊久郎<br>ALDRICH COURTNEY CORTEZ<br>JORDAN PETER DAVID<br>LAVENTO MIKA TAPIO<br>NICHOLAS GEORGE PETER<br>POPOV ALEKSANDR NIKOLAEVICH<br>PRICE NEIL<br>WATKINS JOE EDWARD | 採用<br>採用<br>採用<br>採用<br>採用<br>採用<br>採用<br>採用 |

新任教授紹介

令和3年8月1日付



産学・地域協働推進機構教授に

てらうち いくお 寺内 伊久郎 氏

産学連携推進本部

生年月日

昭和35年 7月15日

最終学歴

北海道大学経済学研究院博士後期課程修了(令和2年12月)  
博士(経営学)北海道大学

専門分野

知的財産, 産学連携



国際連携研究教育局教授に

アルドリッチ コートニー コルテス  
ALDRICH COURTNEY CORTEZ 氏

バイオサーフィス創業  
グローバルステーション  
(ミネソタ大学)

生年月日

昭和45年 4月27日

最終学歴

米国 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 博士課程修了(平成13年1月)  
化学博士(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)

専門分野

創薬化学



国際連携研究教育局教授に

ジョーダン ピーター デイビッド  
JORDAN PETER DAVID 氏

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(ルンド大学)

生年月日

昭和44年 9月20日

最終学歴

英国 シェフィールド大学大学院博士課程修了(平成13年1月)  
シベリア先住民民族考古学博士(シェフィールド大学)

専門分野

考古学



国際連携研究教育局教授に

ラベント ミカ タピオ  
LAVENTO MIKA TAPIO 氏

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(ヘルシンキ大学)

生年月日

昭和37年 3月29日

最終学歴

フィンランド ヘルシンキ大学大学院博士課程修了(平成13年9月)  
考古学博士(ヘルシンキ大学)

専門分野

考古学



国際連携研究教育局教授に

ニコラス ジョージ ピーター  
NICHOLAS GEORGE PETER 氏

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(サイモン・フレージャー大学)

生年月日

昭和28年 2月6日

最終学歴

米国 マサチューセッツ大学アマースト校大学院博士課程修了(平成18年3月)  
人類学博士(マサチューセッツ大学アマースト校)

専門分野

先住民考古学



国際連携研究教育局教授に

ポポフ アレクサンダーニコラエヴィッチ  
POPOV ALEKSANDR NIKOLAEVICH 氏

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(極東連邦大学)

生年月日

昭和41年 5月26日

最終学歴

ロシア ロシア科学アカデミー シベリア校 考古学と民族誌学研究所(平成9年1月)  
考古学博士(ロシア科学アカデミー・シベリア支部)

専門分野

考古学



国際連携研究教育局教授に

プライス ニール  
**PRICE NEIL 氏**

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(ウプサラ大学)

**生年月日**

昭和40年生まれ

**最終学歴**

スウェーデン ウプサラ大学大学院博士課程修了(平成14年11月)  
考古学博士(ウプサラ大学)

**専門分野**

比較考古学と民族形成理論



国際連携研究教育局教授に

ワトキンス ジョー エドワード  
**WATKINS JOE EDWARD 氏**

先住民・文化的多様性研究  
グローバルステーション  
(アリゾナ大学)

**生年月日**

昭和26年2月18日

**最終学歴**

米国 サザンメソジスト大学大学院博士課程修了(平成6年5月)  
人類学博士(サザンメソジスト大学)

**専門分野**

先住民考古学

## 訃報

名誉教授 わたなべ 渡辺 のほる 昇 氏  
(享年93歳)



名誉教授 渡辺 昇先生が令和3年7月8日に御逝去されました。

渡辺先生は、昭和3年1月18日札幌市に生まれ、同27年3月北海道大学工学部土木工学科を卒業、同27年4月に建設省に技官として入省、同省道路局国道課橋梁係長を経て、同33年4月北海道大学工学部助教授に就任されました。同36年7月には西ドイツのアレキ

サンダー・フォン・フンボルト財団の給費研究員としてカールスルーエ工科大学に留学、同37年9月に帰国し、この間同37年3月に北海道大学より工学博士の学位を授与されました。同42年4月教授に昇任し、24年間にわたって橋梁学講座を担当、平成3年3月定年により退職し、同年4月北海道大学名誉教授の称号が授与されました。平成23年11月には瑞宝中綬章を受章されています。

学内においては、北海道大学大型計算機センター設置準備委員会委員、北海道大学情報処理教育センター設置準備委員会委員、北海道大学工学部改革案作成委員会副委員長、同入学試験制度検討委員会委員長、同企画委員会委員長、文部省学術審議会専門委員などを務められました。

学外においては、北海道土木技術会鋼道路橋研究委員会委員長、本州四国

連絡橋鋼上部構造研究委員会委員、日本鋼構造協会Uリブ規格小委員会委員長、日本鋼構造協会耐候性溶接H形鋼小委員会委員長、溶接学会北海道支部長、地震予知総合研究振興会評議員、土木学会副会長、北海道土木技術会会長を務められました。

研究開発と実用化において、無意根大橋の5径間連続曲線桁工法、石狩河口橋の鋼管矢板井筒基礎工法、三国橋の耐候性鋼材裸使用工法など、多くに携わってこられました。橋梁鋼床版のUリブ規格化は、明石海峡大橋をはじめとする本州四国連絡橋の複数の橋梁鋼床版のUリブに活用されました。

ここに渡辺先生の生前の多大なるご功績に敬意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 ながしま 長嶋 かずお 和郎 氏  
(享年79歳)



名誉教授 長嶋和郎先生が、令和3年7月21日にご逝去されました。

先生は、昭和16年10月3日佐渡島に生まれ、昭和42年3月に群馬大学医学部を卒業、その後、昭和47年3月に東京大学大学院医学系研究科博士課程(病理学教室)を修了し、東京大学講師を経て、昭和61年2月に北海道大学医学部病理学第二講座の教授に就任されました。以来、平成17年の定年退職までの19年2ヶ月の永きにわたり教授として教育・研究・診療に従事されました。

先生は、病理学、神経病理学、神経ウイルス学をご専門とされましたが、東大講師時代に、脳の脱髄疾患である進行性多巣性白質脳症の病理解剖症例から、我が国ではじめてJCウイルスを分離してTokyo-1株と名付けました。その後はJCウイルスに関する総合的な研究プロジェクトを立ち上げ、診断法の確立、ウイルス受容体の解析、細胞内ウイルス移送機構、ウイルス転写機構などを明らかにされました。研究費の獲得も多く、平成11年には戦略的創造研究推進事業(CREST)に採択され、5年間で総額が約5億円の研究費を獲得しています。また、多くの研究成果を出版され、生涯で600編以上の学術論文を執筆されています。これらの業績により、平成7年には北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞、平成11年には日本病理学会では最高荣誉である日本病理学賞(宿題報告)を受賞されました。

教育面では、先生は就任以来30余名の大学院生の学位論文(医学)を指導し、門下から14名の教授、准教授を全

国に輩出しました。また、病理解剖、病理診断にも尽力され、特に脳腫瘍の病理診断ではWHO病理分類や脳腫瘍取り扱い規約の執筆をされました。平成元年からは医学部附属病院病理部長も併任し、病理学第二講座からは23名の病理専門医を育成しました。

学会活動としては、日本病理学会の理事を多年務められました。日本神経病理学会については、平成9年から同学会誌であるNeuropathology誌の編集長を務められ、平成15年からは、理事長を務められました。平成3年には日本脳腫瘍病理学会、平成6年には日本神経病理学会、平成16年には日本病理学会総会を札幌にて開催されました。

先生の医学研究科・医学部における教育、研究、病理活動、管理運営、国際交流等への長年にわたるご貢献に感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(医学院・医学研究院・医学部)

## 編集メモ

---

### ●今年もAcademic Fantasiaが始まります

本学の第一線の研究者が出張講義等を通じて高校生に研究を伝える「国民との科学・技術対話」推進事業、通称「Academic Fantasia（アカデミックファンタジス

タ)」。今年度は9月以降にオンライン開催を含めて実施予定です。7月某日、新聞掲載広告用の写真撮影が行われました。詳細は9月号にてお伝えしますので、どうぞ楽しみに。



研究者の撮影風景



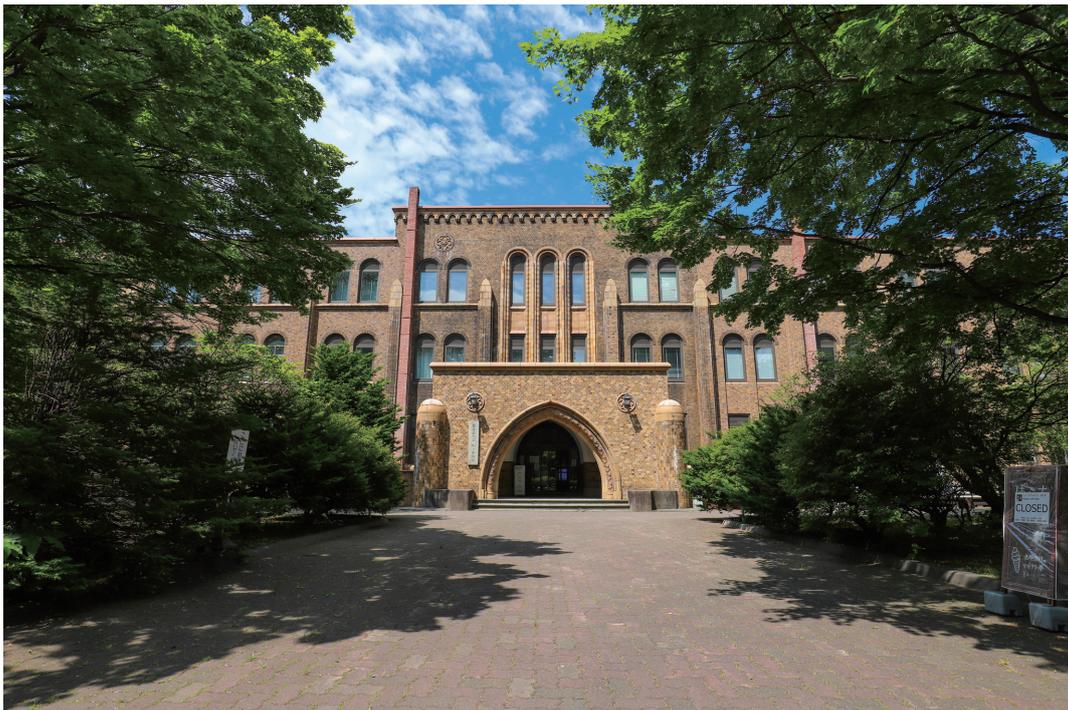
獣医学教育に使われる牛の模型も登場

## 裏表紙メモ

---

今月のキャンパス風景は総合博物館です。元々は1929年（昭和4年）に理学部本館として建設された当館。レンガのように見える外壁は、スクラッチタイルという多数のひっかき加工がされたタイルが用いられています。茶褐色のタイルが青空によく映える、夏のひとときです。

## キャンパス風景 17 総合博物館（北10条西8丁目付近）



北大時報 ⑧ No.809 令和3年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>